

様式2

令和3年度 自己評価表（鳥取県立米子工業高等学校）

【校訓】 自律・創造・協働

中間評価

ミッション	地域社会・産業界に貢献する人材の育成	今年度の学校重点目標	1 工業高校生らしいエチケット・マナーと心身の健全な育成 2 キャリア教育の充実と学力向上による進路実現 3 新しい時代を創造し活躍できる工業人の育成 4 開かれた学校づくり 5 学校業務改善の取組
目指す生徒像	自主自律の精神を持ち、 他者を思いやる創造力豊かな工業人		

年 度 当 初						評 価 結 果		
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	評価基準	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
1 工業高校生らしいエチケット・マナーと心身の健全な育成 □	(1) 生徒指導の徹底	・頭髮服装指導で指導を受ける生徒が減少。 ・学校敷地内でのスマホの取り扱いに関してはルールを守れていない生徒が見られる。	・就職試験をすぐにも受けられる身なりや生活態度で日常生活を過ごしている。	・生徒「自分のエチケット・マナーが向上した」 保護者「本校はルールやマナーを守らせる指導が適切に行われている」等アンケート集約結果が全体の80%以上ならばA。	・安全にチームで作業を行う工業人として社会に受け入れていただくことを意識させ、規律とマナーを自覚して向上させる。 ・職員が率先して社会的ルールを尊重する姿勢を示すことで、生徒にモデルを示す。 ・学校の指導方針を保護者に示し、保護者と連携して指導に当たる。	・特定の生徒に対する頭髮服装指導を継続的に行っているが、指導総数は減少している。 ・学校敷地内でのスマートフォンの使用については、学年・分掌等の見回りにより、減少してきている。 ・配慮の必要な生徒もいる中で、職員が共通理解しながらルール・マナーの指導に取り組んでいる。	B	・指導を継続する。 ・9月初めから行っているSHR前や昼休憩などの教室廊下の巡回を継続的に行う。 ・スマートフォンの使用ルールについて、生徒も含め学校全体で現状に見合うルールを検討する。
	(2) 時間や規律を守る生徒の育成	・就寝時間遅くなり、遅刻をする生徒が一部に見られる。 ・生徒の挨拶は概ねできているが、職員室等に入室する際の挨拶では不十分な生徒がいる。	・就寝時間を意識した生活を実践し、遅刻なく元気に一日の学校生活を始められる。 ・自ら挨拶ができ、場面に応じた言葉遣いができるなど、マナーがさらに向上している。	・2学期までの遅刻合計1回以下の生徒が80%以上ならばA。 ・教職員「生徒の挨拶は良い」「生徒の言葉遣いは良い」等アンケートの集約結果が全体の80%以上ならばA。	・届けなく遅刻、早退、欠席した生徒の保護者へ連絡を取り、家庭での基本的生活習慣の改善について協力をお願いする。また、生徒が抱える現状を職員が丁寧に聞き取り改善のための適切なアドバイスをを行う。 ・様々な機会を捉えて挨拶の習慣化を図る。 ・職員が率先して規律を守り、生徒にモデルを示す。	・遅刻欠席連絡は適切に行われており、遅刻の数も多くない。なお、1学期末までの遅刻合計1回以下の生徒は92.9%であった(通院等のやむを得ない場合も含む)。 ・実習前の集合など、少し早めの行動を指導しており、生徒の意識も向上している。 ・職員室への入場時の挨拶をその都度指導しており、ほぼ定着している。	B	・届けなく遅刻した生徒について保護者連絡の徹底など、保護者や関係分掌との連携を継続する。 ・挨拶の励行を引き続き生徒に対して呼びかける。 ・生徒と面談を行うなど、生徒の状況把握に務める。
	(3) 部活動と生徒会活動の活性化	・コロナウイルスの影響による制約はあるが、部活動への加入率は高く活発に活動している。	・多くの生徒が部活動や生徒会活動に参加し、満足した部活動を行っている。 ・部活動や生徒会活動をとおして、競技力のみならず、人間関係やチャレンジ精神をより高めている。	・部活動または生徒会への加入率が80%以上であり、さらに活動をとおしての満足度が80%以上ならばA。 ・保護者「本校は部活動が活発である」等アンケート集約結果が全体の80%以上ならばA。	・部紹介や勧誘ポスターの掲示を行い、部活動加入率の向上を図る。 ・部活動での大会成果や活動をHPや校内掲示板へ掲載し、活動の魅力を伝えることで部活動への加入を呼びかける。	・部活動の加入率は84%に達しており、コロナ禍での制限が多い中でも活発に活動している。 ・各種行事については、新型コロナウイルス感染症に対応した形で取り組むことができている。	B	・部活動については新型コロナウイルス感染症の対策を徹底して実施する。 ・今後の学校行事についても感染症対策を考慮しながら計画する。
2 キャリア教育の充実と学力向上による進路実現	(1) 生徒全員の希望進路の実現	・就職希望者については100%の就職率を達成している。 ・進学希望者については国公立大学へも合格した。	・就職希望者については就職率100%。 ・進学希望者については国公立大学へも合格。	・生徒「自分は進路指導を受けて、就職先・進学先を決める際に役立った」 「進路実現に向けて計画的に取り組むことができた」 保護者「本校の進路指導等は就職先・進学先を決める際に役立った」等アンケート集約結果が全体の80%以上ならばA。	・生徒が主体的に進路選択を行えるよう、キャリアパスポートを活用する。 ・進路状況や進路に必要な知識・技能に係わる情報を、LHRや進路講演会などを通じて適宜提供する。 ・求人票や指定校一覧を生徒各自のICT機器で閲覧できるようにし、家庭で進路決定の資料として活用していただく。 ・面接指導、個別指導を実施し、効果的組織的な進路指導を行う。 ・大学進学希望者、公務員受験希望者への計画的な指導対策を実施する。 ・コロナ禍における企業情報の提供方法を検討する。	・ふるさとキャリアパスポートを使用したキャリア教育LHRを行った。 ・キャリア塾など計画的に進んでいる。 ・求人票・指定校などICT機器で閲覧できるようにし、家庭で進路決定できるようにしている。 ・就職希望者に対し、学校全体で面接指導や個別指導を行った。 ・進学を希望する生徒に対し、継続的な指導を行っている。	A	・一次内定をもらえなかった生徒に対しては、進路決定まで継続して指導を行う。 ・進学希望の生徒に対しても指導を継続して行う。
	(2) インターンシップ及び県内外の企業研修の充実	・コロナウイルス感染症の影響で多くの企業見学、インターンシップは一部でしか実施できない。	・地元企業見学では、実際の現場を見学することにより、生徒の専門科目に対する興味関心と日々の学習意欲が高まる。 ・2学年全員が行うインターンシップでは、企業現場での実習を通して、専門的な知識や技術・技能に触れ、生徒の進路に対する意識が高まる。 ・県外企業研修旅行では、県外の大手企業を見学することにより、生徒の職業観が育ち、所属学科や専門科目に対する興味が高まる。	・生徒「インターンシップは勉強になったし、充実していた」「県外企業研修旅行は勉強になったし、充実していた」等アンケート集約結果が全体の80%以上ならばA。 ・保護者「地元企業見学、県外企業研修旅行、インターンシップ、課題研究等が充実している」等アンケート集約結果が全体の80%以上ならばA。	・インターンシップでの受入企業を確保し、実際の現場で作業をさせることにより、仕事の大切さ・意義・困難さを体験させる。また産業界での知識や技術・技能を学ばせることによって、日々の学習への意欲や積極性を喚起する。 ・企業を見学することにより、産業全般に対する認識を深めさせ、将来の進路選択に一層明確な目標を立てさせるとともに、所属学科や専門科目に対する興味関心を喚起する。 ・コロナウイルス感染症の影響で直接現場を見学することができない可能性があるため、インターネットやテレビのコンテンツを活用した代替方法を検討しておく。	・県外企業研修旅行(3年6月、2年9月)は、新型コロナウイルス感染症のため中止した。 ・インターンシップ、県内企業見学については、受け入れ先企業と連携し実施に向けて準備を進めている。 ・県外企業の応募前職場見学については、オンライン・リモートで参加した。	C	・県外企業研修旅行の代替旅行を検討している。 ・各行事の実施に向けて、受け入れ先企業と連携を密にする。
	(3) 基礎学力の向上と授業改革	・生徒にはSPI小テスト、基礎力診断適性検査等を活用し、必要とされる基礎学力のレベルを認識させている。 ・職員はICTを活用した授業方法や今後求められる教育のあり方を研修している。	・SPI小テスト・基礎力診断適性検査等を活用し、社会人として求められる基礎学力のレベルを認識し、就職試験等に対応できる力をつけている。 ・生徒はお互いに協力し合い、ICTを活用しながら主体的に学んでいる。	・生徒「SPI小テストに一生懸命取り組んだ」等集約結果が80%以上ならばA。 ・生徒「自分は、授業(座学)が理解できた」等アンケート集約結果が全体の80%以上ならばA。	・SPI小テストの低得点者などに対して、早期に学び直しの必要な内容をフィードバックし、学び方を指導する。 ・オンラインコンテンツを活用し、他校の視察や校内の授業公開などで研鑽を積み、生徒の意欲を引き出す授業を展開する。	・SPI小テストの低得点者に対して補習授業や課題提出を行った。また、小テスト3回終了毎にテスト結果を生徒へ配布し、こまめに理解度をフィードバックした。 ・生徒の知識定着や学力向上につなげるため習熟度別授業を実施している。 ・ICT校内研修4回予定し、3回実施した。 ・タブレットを活用し、ICTを活用した授業に対する意識を向上させている。	B	・SPI小テストにおいては、2学期末にも低得点者に対し補習を行う。 ・Findアクティブラーナーを活用し、引き続き授業力向上に務める。 ・継続的にICT校内研修を行い、次年度のChromebook導入に備える。

年 度 当 初						評 価 結 果		
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	評価基準	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
3 新しい時代を創造し活躍できる工業人の育成	(1)ものづくり人材育成事業の充実・発展	・コロナウイルス感染症の影響で多くのコンテスト・大会が中止された。	・高校生ものづくりコンテストなどへの参加を奨励し、上位へ入賞する。 ・課題研究等の活動を支援することで、生徒が高度な技術へ積極的に取り組み、その成果を各種大会で発揮する。	生徒「自分は実習を通じて、技術・技能が身についた」等アンケート集約結果が全体の80%以上ならばA ・保護者「本校は将来にわたって役立つ教育が行われている。」等アンケート集約結果が全体の80%以上ならばA。	・専門の授業において、ものづくりの楽しさと意義を生徒に伝え、生徒がコンテストにチャレンジする意欲を高める。 ・部活動とのバランスに配慮して取組ができるよう検討する。 ・コロナウイルス感染症の影響を受けにくいコンテスト・大会を調べ、新しい目標としての可能性を検討する。	・ものづくりコンテストにおいては、旋盤作業部門、測量部門に参加し、旋盤作業部門で中国大会に出場した(作品を送付)。 ・ものづくりコンテスト電子回路部門に参加予定である。 ・全国高等学校ロボット競技大会に参加した(ビデオ作品を送付)。	B	・技術習得、技術向上のために継続的に練習を行う。
	(2)専門的資格取得の推進と「課題研究」の充実	・令和2年度ジュニアマイスター取得者実人数は39名。 ・課題研究内容に新しい取組が見られ、各科課題研究発表会及び全体発表会が実施されている。	・ジュニアマイスター取得者が増加する。 ・各科の課題研究で新しい研究内容に取組むなど研究内容が充実し、課題研究発表会で分かりやすい発表ができています。	・卒業生の2割以上の生徒がジュニアマイスターを取得すればA。 ・保護者「課題研究が充実している」及び、生徒「課題研究でプレゼンテーション力が身についた」等アンケート集約結果が全体の80%以上ならばA。	・資格取得を推進し、それぞれの生徒に必要な資格・検定の選択と受検までの計画の立案を支援する。 ・資格取得に向け、補習や社会人講師によるサポートを行う。 ・課題研究のテーマや研究内容を精選し、生徒が研究内容を理解し発展させながら生徒主体で取組むように指導方法を工夫する。	・生徒は資格取得に向けて意欲的に取り組んでいる。 ・資格試験取得に向けて放課後等に講習を行っている。 ・各科の課題研究の取組内容をホームページに掲載した。今後、途中経過(11月頃)・まとめ(2月頃)を掲載予定である。	A	・生徒が意欲的かつ積極的に取り組むよう継続的に指導する。
	(3)5S(整理 整頓 清掃 清潔 しつけ)と安全教育の徹底	・実習時に5Sと安全教育を連動させて指導している。	・5Sや安全を意識した行動ができる。 ・5Sや安全への意識を日常生活に活かしている。	・生徒「5Sの習慣が身についた」等アンケート集約結果が全体の80%以上ならばA。 ・教職員「安全教育について概ね徹底できた。」等アンケート集約結果が全体の80%以上ならばA。	・各授業・実習の中で具体的な5Sの取り組みを明示し、実践することで身につけさせる。 ・5Sの考え方を日常生活や部活動などに転用できるよう考えさせ、安全教育を定着させる。	・日々の声かけにより、教室のロッカー上の私物は減少してきた。 ・教室は清掃時の消毒などにより清潔に保たれている。 ・実習をとおして5Sに取り組んでいる。	B	・生徒の自主的な取組を生徒会を中心に検討する。 ・SHRや実習をとおして5Sに対する理解を深める指導を継続する。
4 開かれた学校づくり	(1)地域社会への貢献	・地域貢献活動を各科が積極的に行っている。	・地域の課題を解決する取組や、身近な人の困りごとの解決を支援する活動により、ものづくりの意義を学び、自己有用感を感じている。	・教職員「ものづくりに関して、近隣地域と連携して概ね成果が上がった」等アンケート集約結果が全体の80%以上ならばA。	・地域や身近な人の課題に目を向けさせ、自分たちの学びで関われることを考えさせる。 ・地域や身近な人に具体的な製作物やシステムを提供する生徒の活動にアドバイスと支援を行う。	・機械科は今年度もマチナカクリスタルのイベントに向けてイルミネーションを作成している。 ・建設科では地域の保育園の駐車場ライン引きを実施した。 ・3名の生徒が、米子ものづくり道場でジュニアリーダーとして小学生に指導する予定である。	A	・地域課題の把握方法を見直し、地域貢献活動を継続的に行う。
	(2)中学校などの異校種との交流・連携	・小中学生に学校公開や体験学習を行い、ものづくりに関心が高まっている。	・様々な異校種連携をとおして、小中学校や地域社会の工業教育についての関心が高まっている。 ・出前授業等を行うことによって、小中学生に本校でのものづくり教育への関心が高まっている。	・教職員「中体験・学校公開等を通して、中学校や保護者へ本校の内容を概ね伝えることができた。」等アンケート集約結果が全体の80%以上ならばA。	・中学生体験学習や学校説明会で、ものづくり教育の意義を理解し、関心を高めていただくよう内容をブラッシュアップする。 ・コロナウイルス感染症による交流制限を想定し、オンラインによる連携も検討しておく。	・7月に予定していた中学生体験学習は中止したが、11月に中学生対象の学校説明会を実施する予定である。 ・10月に中学生保護者対象の学校説明会を実施した。	B	・11月に啓成小学校と合同避難訓練を実施する予定である。 ・環境エネルギー科が11月に福米西小学校で出前授業を実施する予定である。
	(3)本校の教育活動の発信	・学校から積極的な情報発信を行い、学校理解を進めている。	・ホームページ、まちこみメール、マスメディア等を通じ、学校情報の発信をタイムリーに行う。	・保護者「家庭への連絡がきめ細かく行われた」等アンケート集約結果が全体の80%以上ならばA。	・ホームページの内容を定期的に更新するなど、積極的な情報発信に努める。 ・スマートホンからのアクセスを意識した情報発信の方法を検討する。 ・メール配信をこまめに行うことで、保護者へ情報を迅速に伝える。	・「はるかのかのひまわり」事業について、地域やPTAと連携して取り組み、メディアにも取り上げられた。 ・学校と連携したPTAの活動が評価され、優良PTA文部科学大臣表彰を受けた。 ・ホームページや米工Makers(毎週月水金更新)を活用し学校行事、各科の取組など情報発信を積極的に行っている。	A	・積極的な情報発信に努め、早く更新できるよう心がける。 ・スマートフォンを意識した情報発信方法、Google Workspace for Education を活用した新たな情報発信方法を検討する。
5 学校業務改善の取組	(1)学校業務の効率化推進	・令和2年度は時間が業務の目標削減時間を達成した。	・必要なものが必要なときにすぐ取り出せる状態にある。 ・業務上の様々な資料について、再利用、共有できる状況にあり、次に業務に当たる職員が円滑に取り組み、業務に当たる時間が削減されている。	・教職員「ものの定位置を決め、実践できた」職員が80%以上ならA。	・ものを置く場所を決め、定位置に置くことを励行する。 ・各自が資料の整理方法についてルールを決め実践する。 ・担当した業務において、気づいた改善点はすぐに反映させ、資料の修正、申し送り事項を作成する。	・共有フォルダを活用した職員会議題の事前協議、行事等の改善提案ができる環境を整えた。 ・Google Workspace for Education を積極的に活用し、アンケートの集計業務などを効率的に行った。	B	・整えた環境を積極的に活用するための呼びかけを継続的に行う。 ・業務の効率化に向けた意識を高めるため、職員室などの整理・整頓を行う。
	(2)長時間勤務者の解消	・部活動計画を立て長時間勤務にならないよう取り組んでいる。	・部活動では土日のどちらかが休み。 ・部活動は平日3時間以内、休日は4時間以内を実践。 ・職員、生徒共に家族や地域での活動時間が確保できている。	・部活動の指導を主たる理由として時間外業務月45時間以内、年間合計360時間以内ならばA。	・部活動計画を立て、長時間勤務を防止する。 ・部活動指導員との指導分担により、時間外勤務を削減。	・教職員の時間外業務削減に対する意識向上を目的として、時間外業務時間の見える化(6ヶ月間の合計時間の通知)を行った。 ・一部の教職員で時間外業務時間が多くなっている。	B	・時間外業務の多い教職員に対し、継続的な声かけを行う。 ・部活動実績表を確認し、適切な部活動計画に反映させる。

評価基準	※評価基準に複数の目標を設定している場合、全ての目標を達成してA評価とする
アンケート結果によるもの (部活動関係も準ずる)	A 80%以上 B 70%以上～80%未満 C 60%以上～70%未満 D 50%以上～60%未満 E 50%未満